



# しらさぎ

目黒区立第八中学校  
学校だより NO.17  
(通巻61号)  
平成26年(2014)  
12月1日(月)

## 『命の授業』

校長 飯野 博史

11月21日(金)、第2学年で「命の授業」を実施しました。講師として公益社団法人誕生学協会代表理事 大葉ナナコ先生をお招きしました。

授業の前半はビデオを使用して、人類の命はいつから始まったのか、人類は命をどのように受け継いできたのか、私たちはどのように生を受けたのかといったお話を伺いました。全員に一粒ずつ米粒が配られ、母親のお腹にいるときはこの米粒よりも小さい、0.1ミリにも満たない命だったことを実感しました。胎盤やへその緒の仕組みも学習しました。自分たちの命が存在することは奇跡に近い、ということ学びました。

出産のビデオでは、お父さん、お母さんが涙を流して我が子の誕生を喜ぶシーンがあり、私たちも両親の祝福を受けながら誕生したことを改めて知ることができました。「生まれてきてくれてありがとう」という言葉が印象的でした。

授業後半は、8人の赤ちゃんとお父さん、お母さん方が先生でした。突然の赤ちゃんの登場に生徒たちはびっくり。まだ生後2か月の双子の赤ちゃんもいました。グループに分かれて、早速赤ちゃんを抱っこさせてもらいました。赤ちゃんを始めて抱っこする生徒がほとんどで、こわごわと抱っこしていました。「赤ちゃんのにおいがする」「かわいい」など、生徒たちは大喜びでした。抱っこしたとたん泣き出す赤ちゃんもいて、戸惑う生徒もたくさんいました。赤ちゃんと接する生徒たちはみんな笑顔でした。お父さん、お母さん方から出産の時の様子や子育てについての話も伺いました。

最後に、お父さん、お母さん方から中学生にメッセージが送られました。「かけがえのない大切な命、大事にしてください」「皆さん一人一人がご両親から大切にされているように、周りのみんなも同じように大切にされています。いじめなどがあってはいけません」と実感のこもったメッセージでした。

講師の先生、お父さん、お母さん方の話を真剣に聞いている生徒たちの表情が印象的でした。

※ 生徒の感想文を紹介します。

・「命の授業」を通して、命が生まれることの大変さと素晴らしさを知ることができました。赤ちゃんが生まれるときの映像を見たとき、とても苦しそうだったけれど、生まれたときの両親の幸せそうな顔を見て、やはりうれしいものなのだなと思いました。

本物の赤ちゃんがきたときはびっくりしましたが、その一人一人が頑張ってきたんだと思ってとても感動しました。赤ちゃんを抱っこするときは緊張しました。一人目の赤ちゃんは首も据わっていて、人見知りをするせいか、お母さんの手を離れて抱っこされるとすぐに泣いてしまいました。二人目の赤ちゃんはまだ首も据わっていませんでした。赤ちゃんを抱っこできて、命が生まれる大変さや素晴らしさについても知ることができて本当によかったです。



・この授業を通して、命というものはどのようなものなのかを学んだと思う。たとえば人は生まれたばかりの時は0.1ミリだということや、5～6週間目でやっと米粒程度の大きさになるということなど驚くことがたくさんあった。実際に赤ちゃんに触れてみて思ったことは、とても軽く、小さいのに、なぜかとても重いようで、緊張感があるということだ。この授業を通して、命の大切さを学ぶことができた。



・今回の「命の授業」で、自分が生まれたときに、親がどのような心情だったのかわかりました。私は家でそのようなことを聞いたことがないし、考えたこともありませんでした。赤ちゃんのご両親が「生まれてきてくれてよかった」と言っていて、そう思われているなんてとても幸せなことなんだなあと思いました。赤ちゃんを抱っこしてみてこんなにかわいいんだと思いました。

## ◎ 人権特別講演会のご案内

### 藤井輝明先生 演題『今を生きる』

- ・日時 12月17日(水) 13時30分開場
- ・場所 本校体育館

《プロフィール》



「わたしは海綿状血管腫が原因で、幼いときから顔の右半分に大きなアザがあります。そのために、幼いころはいじめっ子からひどくはやしたてられたものでした。でも、わたしの母は「輝ちゃん、顔のことでいじわるされても、殴ったりたたいたりしてはいけないのよ」と言いました。そして「いじめっ子に対する最高の仕返しは、明るく堂々としていること。何事もなかったように笑顔で返しなさい」と。いじめっ子は、過敏に反応するほど面白がり、ますます調子に乗るものです。だから、これはじつに的を射た教えでした。でも、わたしは決して聖人君子ではありません。20代までは、通りすがりの人から露骨にジロジロと顔を見られただけで、精いっぱい怒りを込めてにらみ返していたのです。」

(TOKYO人権 第38号 平成20年6月18日発行より)



道徳の教科書等で取り上げられました。

医学博士。1957年、東京都国立市生まれ。中央大学経済学部、千葉県立衛生短期大学第一看護学科卒業。筑波大学大学院修士課程、名古屋大学大学院医学研究科博士課程修了。熊本大学医学部保健学科看護学専攻教授、鳥取大学大学院医学系研究科教授などを歴任。

現在、顔に病気や傷などを抱える人たちに対する偏見をなくすため、学校を中心とした講演・交流活動をはじめ、京都の人権・観光ガイドに関するNPO法人遊悠舎「京すずめ」の理事としての活動や高齢者福祉入浴活動を先導するほか、熊本県生涯学習センター講師やハンセン病回復者の方たちが暮らしている国立療養所菊池恵楓園にて看護部の研修指導にあたるなど、幅広い社会活動を行う。

※ 目黒区総務部人権政策課「人権オープンスクール」として行うものです。地域・保護者の皆様もぜひお出てください。途中からの入場はお断りすることもありますので開始時刻までにお集まりください。今回の講演会につきましては、本「学校だより」をもってご案内とさせていただきます。

※ 写真等の掲載にあたっては許可をいただきました。